

持経宿、平治宿の巡回整備

◇実施日 7月9日(火) 曇り時々晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、梶野照雄、村吉光夫 4名

昨年から今年にかけて全国で熊が出没している。九州では絶滅したとされているが本州などでは生息数が増えているようだ。

大峰南部で熊の目撃情報は少なかつたが7月6日夕方、自宅に電話があり今日の午後12時20分ごろ、持経宿の水場から戻る途中、持経宿小屋のすぐ下の林道で前方に黒くて丸っぽいものが現れ、あつという間に谷の下つて行った。写真を撮る余裕はなかつたが、熊だと思ふ。あまり大きくなかつた。(大阪の橋さん)とのことだつた。



鍵が交換された

持経宿の水場

平治宿へ向かう

さて、どうしたものかと思案した結果、やはり行くべきとの結論に達し、持経宿小屋の携帯電話充電器の取り換えに行くと話していた梶野君に電話したら、すぐ行くという返事があった。湯川君にも声を掛けたらOKとの返事をもたらした。また、近々持経宿、平治宿訪問予定の村吉さんに

熊の件を報告したら、私も行く。と返事があり、4名で持経宿に向かつた。先日、ゲートの鍵を変更したと森林管理事務所から新しいキーが送られてきた。念のため新旧のキーを持参したが、鍵は変えられていて新しいキーで開錠できた。これで古いキーはお役御免になった。

今日は沖崎、村吉が持経宿で作業、梶野、湯川の2名で平治宿に行くことに決める。池郷林道の路面状況を心配していたが、一度も車を止めることなく、50分ほどで持経宿に着く。

村吉さんは文字が剥がれた靡看板の取り換えに多忙で、奥森岳、地藏岳と遠いところが残っているらしく、水場から林道を進んで正法寺谷あたりから乾光門へ登るルートを検討中で、水場から林道を1kmほど進んでみたが異常はなく、もつと先まで行けそうに思ったが、後日村吉さん一人で行つてみたら落石があり、通行不能だつたそう。

平治宿に向かう二人を見送つて、沖崎はマキ造りとマキ小屋整理、小屋とお堂内外の整理清掃。村吉さんは小屋屋根の樋に被せられたネットを撤去。トイレ清掃などを行う。平治宿班の二人が戻つてから昼食とした。肝心の熊だが、水場付近や小屋周りにその形跡はまったくなかつた。

(記：沖崎)



携帯電話充電器を交換



本日の参加者



ゲートを過ぎる

【平治宿班】

持経宿に着いて、すぐに水場へ向かった。水場の沢はよく流れているが、ホースからの水は細くなっていた。継ぎ目を外すと大量の泥が流れ出た。上に登って取水口の小石や枯葉を掃除するとホースの先からの流れは2倍ほどになった。

行動タイム

池原 09:25 → 10:00 持経宿 10:23 → 11:21 平治宿 11:33 → 12:35 持経宿 13:45 → 16:15 → 14:08 池原



平治宿に着く



平治宿小屋の屋根



トイレ棟の屋根

小屋に戻って、湯川君と二人で平治宿に向かった。伸びたアセビを切りながら進み、中又尾根のベンチで休憩する。じっとしていると丁度いい気温だ。歩くときやっぱ汗が出る。平治宿に着いて小屋内外とトイレを確認する。特に変わったことはなく、通常の状態だった。小屋周りや奥駆道は乾燥していて動物の足跡は見つからなかった。持経宿の水場もよく流れているので平治宿の水場には下りず持経宿に引き返した。平治宿小屋とトイレ棟の屋根トタンがかなり錆びていて、塗り直しが必要だ。特にトイレ棟の屋根は一部が腐食で欠けているので、早急な対策が必要だ。帰りに千年松のお堂の櫓を交換し、持経宿に戻った。

(記：梶野)